神戸市長田区における子どもの口腔保健に関する研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2018-10-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 畑山, 千賀子, 御代出, 三津子, 上原, 弘美, 澤田, 美佐緒, 高松, 邦彦, 中田, 康夫, 足立, 了平 メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-tokiwa.repo.nii.ac.jp/records/1030

5-B-6

神戸市長田区における子どもの口腔保健に関する研究

畑山千賀子[1)]
御代出三津子[1)]　上原弘美[1)]　澤田美佐緒[1)]　高松邦彦[2)]　中田康夫[3)]　足立了平[1)]

近年、世界の全死亡のうち過半数を占める循環器疾患、糖尿病、がんなどの全身疾患が、口腔疾患と共通する危険因子をもつだけに留まらず、口腔の健康と全身の健康とが強い関連性をもつことが、次第に明らかになってきた。

また、「よく噛んで食べる」ことは、子どもの口や顎の正常な発育を促し咀嚼機能を発達させるだけでなく、唾液の分泌が促進されることによりう蝕や歯周病を予防し、肥満や生活習慣病などの疾患を予防する、などのさまざまな効用・効果があるといわれている。しかし一方で、昨今、子どもの口腔機能の低下が方々で指摘され始めている。

したがって、う蝕予防や口腔機能の向上などの口腔の健康管理については、成人してからではなく、乳歯から永久歯へと生え変わる時期である幼児期から、生活習慣の 1 つとして身につけておくことが望まれる。

本学が位置する神戸市長田区の乳幼児のう蝕有病率は、神戸市 11 行政区のなかで 1.6 歳児・3 歳児・12 歳児においてワースト 1 位である。そのためこれまで、行政や地域コミュニティにおいてさまざまな予防方法が展開されてきたが、現時点においては際立った効果はみられていない。そこで今回、本学における「私立大学研究ブランディング事業」の一環として、長田区における子どもの口腔保健の向上を目指した実践的研究に取り組むことにした。

1）神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科　2）教育学部こども教育学科　3）保健科学部看護学科